



新型コロナウイルス感染拡大防止の為、様々な活動に制限が出ています。これにより、不安や悩みは尽きませんが、同時に新たな創意工夫が生まれています。「つながる通信」では、そうしたコロナに負けない地域の繋がりやパワーを発信し、各地でお役立ていただく一助となれればと願っております。

取材先

生品地区

津久井 陽夫さん



つくい あきお

津久井 陽夫さん(84歳)は、生品小学校区内の信号のない道路に立ち、子どもたちが安全に登校できるよう見守りを行っています。

きっかけは平成17年に生品小学校が始めた「見守り隊」の募集があったことです。

「生品小応援団見守り隊」のベストを着用して活動を始め、18年が経ちました。

最初は運動のためと思っていましたが、自分のためだけではないと考え、子どもたちの安全を見守る活動を始めました。

7:10 活動が始まります。

津久井さんが立つ道路は、交通量が多くスピードを出す車も多い場所です。南方向と西方向から来る子どもたちを待ちます。

この場所には、奥さんの敏江さんも学童横断中の旗を持って立ちます。



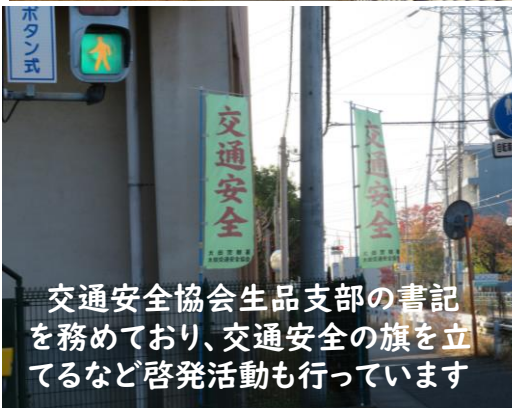
地域のお宝発見 ～太田市生活支援体制整備事業～



子どもたちが元気に登校します



子どもたちと一緒に小学校まで歩きます



交通安全協会生品支部の書記を務めており、交通安全の旗を立てるなど啓発活動も行っています



子どもたちの見守りを終え、ここからは自分のペースで自由に歩きます

「おはようございます！」

津久井さんと子どもたちの元気な声が響きます。陽夫さんと敏江さんは「今度は西から子どもたちが来るよ」など声を掛け合って状況を確認します。

陽夫さんは最後の登校班が横断歩道を渡り終わると、約1キロの距離を列の最後方から一緒に歩き、小学校の南の信号まで移動。旗振りの保護者が立たない場所に立ち、始業時間まで子どもたちが安全に渡れるように見守りしています。



子どもたちが無事に横断歩道を渡り終わると、今度は自分自身の運動の為に約5キロの道を歩きます。

健康であるために土日休まず1人で自由に歩いています。

「あと何年続けられるか分からないけれど、元氣なうちはこの活動を続けていきたいと思っています。」

☆チェックポイント☆

子どもたちの安全と自分自身の健康のために始めた見守り活動が、生き生きとお元気で過ごす活力になっています。生品小にかかわる多くの子どもたちから「交通安全の津久井さん」として知られており、地域の子どもたちにとって、なくてはならない大切な存在となっています。

地域のお宝情報を募集しています！

「私の近所でこんな取り組みをしている」「こんな工夫をして気にかけている」など、あなたの地域のつながりを教えてください。情報をお持ちの方は右記お問い合わせまでお願いします！



詳しくはこちら

お問い合わせ

太田市社会福祉協議会 地域福祉係
〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549
TEL 0276-46-6208 FAX 0276-46-6229